

## 区市町村の人口規模と人口性比の関係

The Relationship Between Population and Sex Ratios of Area in Prefecture

坂井博通 (埼玉県立大学)

Hiromichi Sakai (Saitama Prefectural University) sakai-hiromichi@spu.ac.jp

### ○ はじめに

坂井 (2017) は、近年市部の性比が郡部よりも低く推移してきたが、2015 年に生産年齢人口のすべての5 歳階級において市部は郡部よりも低い人口性比となったこと、また、都会的地域の人口性比が低下していることを見出した。しかし、都道府県内の性比の在り方については検討を加えていなかった。そこで、本発表はこれまでの研究結果を踏まえ、都道府県内における区市町村の人口規模と人口性比の関係を検討する。

### ○方法

データは2015年の国勢調査を用いる。各都道府県において区市町村の人口規模と人口性比(総数、15~44歳、45~74歳、75歳以上)の関係(スピアマンの相関係数)を検討すると同時にその背景を探る。

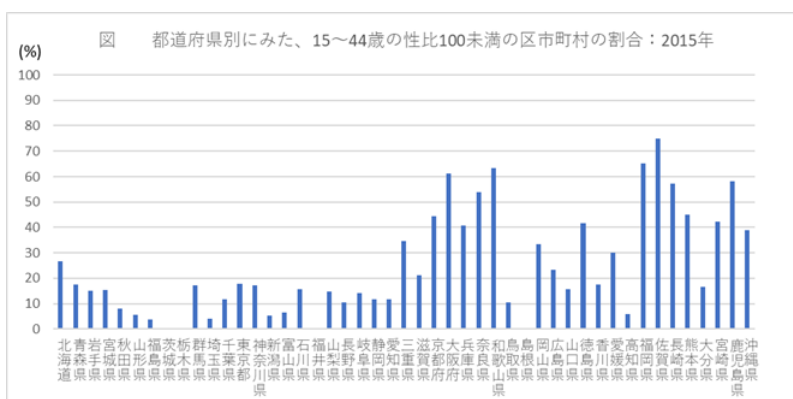
### ○結果と若干の考察

1 都道府県ごとに、15~44歳性比が100未満の区市町村の割合を見ると西日本に高く東日本に低い(図参照)。

2 区市町村の人口規模は、総数人口性比とは弱い正の相関を示すものが多い。また、理由は不明であるが、75歳以上人口性比とも弱い正の相関を示すものが多い。15~44歳人口性比とは最も関係が強く、多くの場合負の相関を示す。地域によっては、総数の人口性比と15~44歳人口性比の方向は逆になる場合もある。

3 都道府県内で人口トップ3の地域が人口性比順のどこに位置するかを見てみると、3つの類型となった。最初は

人口規模と性比の関連が弱いもの(代表は東京都型)で、数は多い。2つめは人口が多いところに性比が高いもの(島根県、千葉県型)。3つめは人口が多いところに性比が低いもの(鹿児島県、奈良県型)である。



4 15~44歳人口性比が大きく平均からはずれる地域は、国勢調査と住民基本台帳人口の差が大きい傾向がある。

\*なお、詳細データは当日配布する。